

# 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 運動・遊び大好き！オリパラ教育推進事業推進校 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

## 学校名【山口市立大殿小学校】

1 実践テーマ	I・II・ <b>III</b> ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	第4学年 全4クラス 120名 第5学年 全3クラス 92名 第6学年 全3クラス 100名
3 展開の形式	○学校における活動 ・教科名（総合的な学習の時間） ・行事名（人権教育講演会）
4 目標 (ねらい)	・元パラリンピック陸上日本代表選手との交流を通して、個人の特性に応じてスポーツに親しみ、豊かな人生を送っていることを知り、パラスポーツに関する関心・意欲を高める。 ・障害者と健常者とがパラスポーツを一緒に楽しむことを通して、共生社会の参画者としての意識を高め、課題の解決に向けた実践的な態度を育てる。
5 取組内容	<p>・事前の学習として、総合的な学習の時間で福祉について学習し、通常の車いす体験を行った。体験を通して、車いす利用時の課題や相手に対する思いやりの心について学習した。</p> <p>・図書室のオリンピック、パラリンピックコーナーの本やインターネットを使って、オリンピック、パラリンピックの歴史や意義について学習した。</p> <p><b>【人権教育講演会】</b>          演題：チャレンジド・スポーツについて          講師：元パラリンピック陸上日本代表 藤田英二 氏          ・『チャレンジド』の言葉の意味を知り、様々なことに挑戦する意欲を高めた。</p>
	

	<p><b>【車いすバスケットボールとスポーツ用車いす体験】</b>  講師：山口県車いすバスケットボール連盟 河本公成 氏 他4名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすバスケットボールのルールについて学び、実際に車いすを使ったシュートなどを間近で見ることができた。</li> <li>・スポーツ用車いすに乗り、通常の車いすとの違いを感じるとともに、車いすで鬼ごっこをすることを通して、足が不自由であっても、同じように鬼ごっこを楽しむことができることを学んだ。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後の学習として、共生社会の大切さや可能性に挑戦することの素晴らしさについて話し合った。</li> </ul>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は、今回の学習を通して、道具や環境が整えば障害があっても好きなスポーツを楽しめることを実感することができた。</li> <li>・元日本代表の選手の活躍の様子を身近で感じたことにより、オリンピック、パラリンピックに対する興味関心を高めることができた。</li> <li>・事後のアンケートでは、車いすを使ったスポーツに対して興味が高まった児童が93%、社会や人のために役に立つことをしたいと感じた児童が94%であった。今回の学習を通して、共生社会の一員としての素質の高まりを感じる事ができた。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育講演会や車いすバスケットボールの交流の前に、通常の車いす体験をしたり、高齢者疑似体験をしたり、点字の学習をしたりするなど、福祉に関する様々な実体験を通して、子どもたちの興味や関心が高まった状態で臨むこととした。</li> <li>・児童にとってできるだけ身近な存在の方がよいと考え、学校区内でお勤めの方や、近隣の体育館で練習を行っている方の中から適任の方をお願いした。身近な方でも、こんなにすごい方がおられるということを再認識することができた。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ体験活動を多く行うようにしたが、児童数が多いため、どうしても一人当たりの体験できる時間が少なくなってしまった。</li> <li>・今回の体験が、単なる活動に終わらないよう、今後の学習や生活においても、オリンピックやパラリンピックへの興味、関心が継続して続くような取組の工夫が必要である。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も4年生を対象に総合的な学習の時間で福祉学習を位置づけ、単に福祉の視点からではなく、人生を楽しむ手段の一つとしての障害者スポーツの理解を促すような活動を行っていきたい。</li> <li>・オリンピックやパラリンピックのアスリートに焦点をあてた道徳や特別活動を通して、児童自身がこれからのよりよい生き方を考え、自分の目標に向けて主体的に学ぶ姿勢を養いたい。</li> </ul>

